

編集手帳

ユーゴ・コソボ
自治州から隣国
アルバニアなど
に逃れた難民た
ちが今、続々帰
り始めている。

街の復興、治安
の維持など、なお道のり
は険しい◆アジア医師連
絡協議会（AMDA、本
部・岡山市）の医療チー
ムも先日、コソボの町プ
リスレンに入った。医師
上田明彦さん、看護婦で
調整員の佐藤麻里さんら
四人だ◆多くの病院が機
能を失い、設備も医薬品
も足りない。上田さんが
小児科専門医と伝え聞い
て、三歳の男の子が運び
込まれてきた。目の悪性
腫瘍（メラノーマ）で、
シニツタ言（シニツタ）◆今春、ズ
オグラマンの病院で右眼
球の摘出手術を受けた。
が、空爆開始後、治療が
中断したまま、コソボの
自宅に戻っていた。ここ
には専門医はいない。ズ
オグラマンへの道も閉ざ
されている◆「早く治療
を再開しないと、命にか
かわる」。上田医師は各
国NGO（民間団体）な
どにも協力を求めたが、
混乱の中、受け入れ先が
みつからない。よびやく
金沢大医学部付属病院が
受け入れてくれた。ここ
になった◆無論、また難問
はある。コソボからの出
国手続きも一苦労で、治
療、滞在費用もかかる。
ぜひ一般の協力をと、A
MDA本部では「ネジニ
ル君を支える会」を組織
するなど、上田医師と連
絡を取り合っており、慌ただ
しい準備を進めている。